

特色ある学校

社会で生きる実践的な力の育成

北海道稚内商工高等学校長 川崎 博正

1. はじめに

今、専門高校においては、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術・技能の定着を図るとともに、ものづくりなどの体験的な学習を通して、「実践力」を高めることが強く求められている。こうしたなか、本校では、「有為な社会人、誠実な職業人の育成」という学校教育目標のもと、教育内容の工夫・改善を図るとともに、地域や産業界と連携した、様々な教育活動を積極的に取り入れるなどして「実践力」を培う教育の充実を図っている。

ここでは、「社会で生きる実践的な力の育成」と題して、それらの教育活動について紹介する。

2. 本校の概要

本校は昭和28年に北海道稚内高等学校に設置されていた商業科を分離し、北海道稚内商業高等学校として開校している。昭和40年に工業科（機械科・電気科）が併設され、道内初の商・工併置校となり、校名も北海道稚内商工高等学校と改称され、本年で56年目を迎える。開校以来、地域の産業を支える人材を育成するという役割を担い、地元はもとより、全国各地の産業を担う人材を輩出している。

本校では、基礎・基本の確実な定着を図るため、専門教科におけるTTや習熟度別授業の実施により、個に応じた指導を充実させるとともに、生徒の興味・関心を高め、学習意欲の向上を図るため、生徒が地元の大学に出向いて講義



写真1 校舎外観

を受けるなど、高大連携や地域との連携等を推進している。

また、生徒の進路が多様化している現状を踏まえ、選択科目を積極的に導入するなどして、進路選択が広がる教育課程を編成している。特に、進学希望者に対しては、進学希望先の履修条件に幅広く対応できるカリキュラムを編成しており、近年、少数ではあるが国公立大学へ進学する者も出ている。

部活動も活発で、部活動加入率は約7割であり、多くの部が全道大会へ出場している。中でも、スキー部、工業クラブ、商業クラブについては全国大会に出場するなど、大きな成果を上げている。

3. 本校の特色

(1) ものづくり教育（総合実習）の実践

機械科では、1年次の工業技術基礎や2年次の実習のなかで、旋盤や手仕上げ、重油炉を用いてアルミニウムの鋳込み等の要素実習を行い、3年次の実習では1・2年次で学んだ技術が、どの程度身に付いたかを確認するとともに、一つの製品が完成するまで、どのような工程や加工方法が必要なのかを学ばせるため、卓上万力の製作を取り入れている。

製作工程は、鋳造（シェルモールド法）により、大まかな形を製作することから始め、次に旋盤による軸・ネジ加工、ボール盤による穴あけおよびタップ・ダイスによるねじ切り等の機械加工を施す。



写真2 鑄込み作業1

鑄込みを行うためには、キュボラの分解・補修・組立に4週間を要し、5週目に鑄込み作業を行う。この時、実習室は何時にも増して緊張が張り詰め、生徒は教員からの指示を聞き漏らすまいと一層真剣な表情となる。この鑄込みから機械加工までの一連の作業を通して、生徒は自ら自分の役割を見つけ出す。また、失敗をしたときには皆で協力し合うなどの協働体制が自然とつくりられ、完成したときには皆で健闘を讃え合い喜びを分かち合うなど心が一つになる。

このような生徒の変容が見られるのは、製作の工程が長期に渡り、様々な課題を解決しなければ完成に辿り着けないこと、また、1300℃以上に加熱された鑄鉄を実際に扱うなど“本物のものづくり”の醍醐味を実感できたからに違いない。まさに、無から有をつくり出すものづくりの意義や有為性について学ばせるには最高の実習である。キュボラを用いた鑄造実習が全国的



写真3 鑄込み作業2



写真4 文鎮製作風景

に減っていく中ではあるが、本校ではこの実習を絶やすことなく、今後も継続させていきたいと考えている。

(2) ものづくり体験学習

3年前から、近隣の小学校6年生を対象に「ものづくり体験学習」を実施している。この取り組みは本校の生徒が講師となり、小学生に対して、真鍮製の文鎮の製作、工作キットの組立やはんだ付け作業の指導を行うものであり、地域の子供達がものづくりの楽しさを体験するとともに、本校の教育活動を知る絶好の機会となっている。

この活動を通して、本校の生徒は、子供達にものを教えることの意義や難しさを学ぶとともに、日頃、学校で学んでいることを、地域にアピールできることに喜びを感じている。

また、小学生からは、「普段接することの少ない、高校生が優しく教えてくれて、とても楽しい時間を過ごすことができた」などと好評を得ており、今後もこうした地域等と連携した取り組みを積極的に進め、工業教育への理解の促進を図って行きたい。

(3) インターシップの取り組み

生徒に望ましい勤労観・職業観を育むとともに、自らの進路について熟慮させるため、3年前から、総合的な学習の時間の中で、インターシップを実施している。主な実施内容としては、①事前指導として、生徒の意識を高めるた



写真5 自動車整備業実習風景



写真6 高大連携授業風景

めの外部講師による講演会の開催や自己紹介書を作成する。②就業体験として、近隣の企業や保育園、介護施設、自衛隊など、およそ30の事業所における研修や実習を行う。③事後指導として、表現力やプレゼンテーション能力の向上を図るための礼状の作成、さらには、1年生や各事業所の方に対する発表会を実施している。

(4) 学科間相互交流

本校の工業科と商業科の併置校という特色を生かし、他の専門学科では、どのような施設を用いて学習を行っているのか。また、他の学科ではどのようなねらいを持って授業を行っているのかを知ることにより、社会で必要とされる技術や知識を理解し、将来活用できる素地をつくることを目的に、2年生を対象とした学科間相互交流を約10年前から行っている。

機械科では旋盤、鍛造、鋳造を行っており、参加した商業科の生徒達は、普段触れたことのない機械を操作し、滅多に体験することができない貴重な機会を得ることができたという意見が多い。また、商業科では、接客実習を行っており、機械科の生徒にとっても、社会人として身に付けておかなければならない礼儀や作法を知る良い機会となっている。こうした取り組みは併置校ならではの利点であり、今後も継続していく予定である。

(5) 高大連携

3年前から高大連携の取り組みとして、近隣

■主な講義のテーマ■

- ・映像製作（特殊効果の撮影）
- ・Smilによるマルチメディア編集
- ・UNIXオペレーティングシステム入門
- ・Webアプリケーション製作入門（PHP編）

にある稚内北星学園大学に協力を頂き、参加を希望する生徒が課題研究の時間を用いて大学へ行き情報に関する専門的な講義を受講している。

体験した生徒からは、「稚内北星学園大学の講義内容等について詳しく知ることができた」、「より高度な知識や技術を身に付けるためには大学へ進学する必要があると思った」、「進路を決定するうえで大変参考になった」などの意見が多く聞かれている。今後も大学側にご協力を頂き、継続したいと考えている。

(6) 副港市場

将来の自己の在り方生き方を見据えながら、社会の変化に柔軟に適応し、よりよく生きようとする態度等を身に付けさせることを目的として、稚内市市街地総合再生プロジェクト「稚内副港市場」敷地内にある「波止場横町」（屋台村）に、学生達の店「海のカレー屋さん」を出店し、商業科の生徒が主体となって、販売実習に取り組んでいる。

この取り組みは、「地域に根ざした人材を育成するには、将来の地域を支える子供達に対して、就業体験の場を提供し、体験的な学習などを行わせることが必要である」、「地域の活性



写真7 海のカレー屋さん

化を図るため、高校生の力（若さ、パワー、アイデアなど）が必要である」と稚内商工会議所女性会から提案されたものである。本校ではこの提案を受けて、生徒による「稚内活性化委員会」を立ち上げ、出店・営業に向けての企画・立案、商品開発・販売実習を行うこととした。

自分達の企画したことが実際の店舗の開店や営業に反映されることから、生徒達は活き活きと活躍しており、こうした取り組みは問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付けさせ、生徒一人一人の実践力を高める教育として極めて有効であると考えている。

今年度は2カ年計画の2年目にあたるため、昨年度の課題点であった、「平常期の客足数をいかにして伸ばすか？」についての改善策を導入し、生徒の課題解決能力のさらなる向上を図っている。当初の目的であった、地域に根ざした人材の育成に向け、将来の自己の在り方生き方を見据えながら、社会の変化に柔軟に適応し、よりよく生きようとする態度等が身に付くよう、今後も精力的に取り組んでいきたいと考えている。

(7) 模擬裁判

平成21年から実施される裁判員制度に向け、社会的責任を自覚させるとともに、規範意識や望ましい倫理観の定着を図ることを目的に、旭川地方検察庁と地元の法律事務所と連携をとり、平成18年度より実施している。

内容は裁判員制度についての説明を、旭川地



写真8 法廷劇風景

方裁判所の裁判官から受けた後、法廷劇を行い、その後評議を行い、裁判員役の生徒が、被告の有罪、無罪を議論するというものである。

実施後は、これまでの裁判制度との違いを理解し、新しい制度への関心が高まるとともに、傍聴人という視点だけではなく、原告及び被告、弁護士や検察官、裁判官や裁判員、傍聴人など様々な立場に立って、物事の善悪を考える契機となった。

4. おわりに

教育の役割は、子どもたち一人一人が将来においてその可能性を开花させ、自らの人生を幸福に過ごすことができるための基礎力を身に付けさせることである。

したがって、学校においては、子供たちの学ぶ意欲を高め、確かな学力の向上に努めるとともに、人間関係を構築するための基礎となるコミュニケーション能力などの育成を通して、自立した生き方を支える基本的な資質・能力を身に付けさせる。その上で、社会の変化に対応し生きていくための実践的な力を身に付けさせるよう教育活動を展開していくことが大切であると考えている。

本校で現在、取り組んでいる本物志向のものづくり教育や体験的な教育活動を通して培われた「実践力」が、将来、産業界や実社会において「活きる実践力」として开花することを切に願っている。